

古今事類

北海道札幌高等学校

# 強行遠足の歴史

## 強行遠足への序章

初代校長 佐藤猪之助先生は開校後、生徒に仮校舎で机も椅子もすべて借物、体操場も、グラウンド等の校内外の生活に不自由な思いをしていたので純粋な生徒に活気あふれる自由で清新な気風を持たせることを教育方針としていた。

「不自由を我慢せよ。リンカーンも丸太小屋で育ったんだ」という話しなどをして、自ら質素を旨としていたから質実剛健の気風も自然について来た。

その気風を創るのに役立ったのは山野を跋涉し、歩け歩けの運動であった。この伝統が強行遠足となり現在まで続いているのである。

しかし開校当初の遠足はとても現在の比ではなかった。

山歩きの好きな佐藤校長と、この下に26才の阿部教頭以下5～6名の先生で、平均年齢23～24歳という血気盛んな青年教師が揃っていた。

第1回生が1年に入学し5年卒業するまでの遠足の一部を紹介する。

1年生の時、野付牛より温根湯まで片道36km、帰路留辺蘂まで合計46kmを歩いた。留辺蘂より汽車に乗って帰って来た。(高等科卒業して中学に入学した者もいたが、小学校卒業したばかりの13歳の生徒には大変な距離であった)

2年生の時に、網走海岸よりオショップを経て藻琴湖に出てシジミ取りをしてから網走へ。網走より帰って来た。

同じく2年生の時の大正12年9月7日～8日、チミケップトゥ(湖)へ。地図にも出ていず、道路は樵が通る程度のもの、生徒の服装も羽織、袴の者もいて(写真参照12頁)この服装で毛布1枚、細引き1本、5人1組で鍋、米、ミソとネギを大風呂敷に包み背負って熊笹を進んだが湖畔に出ない。あちこちに熊の糞あり、掘ったばかりの穴がある。ついて行った猟師がやっとさがし当てた湖畔に出て一泊して帰って来た。

4年生の時の大正14年6月9日～13日、4年生のみ釧路へ行軍、美幌より和琴小学校まで歩き1泊、翌日、弟子屈で1泊、途中熊の糞を見たり青大将を見たりして糖路駅通に1泊、釧路で初めて旅館の蒲団に寝ることが出来た。帰りは、釧路から池田へ出て野付牛迄池北線の汽車で帰ったが歩いた距離は240kmの大行軍であった。

## 強行遠足の実施

山野の跋涉や遠足などの歩け歩けの行軍は5年間の中学生生活で記憶に残るようになるといふねらいとなり、定着した形で強行遠足が始った。

この実施寸前まで最も心配したのは佐藤校長だったが、走り始めてから先頭に立って生徒を指導した。

### 1. 名 称

昭和7年11月12日実施の第1回より、昭和17年の第11回まで、野付牛駅前(現 北見駅)より

相内・留辺蘂・ボンムカ（現 金華）常紋トンネルの上を歩いて上生田原（現 生田原）下生田原（現 安国）、遠軽、開盛、上湧別、中湧別、下湧別（現 湧別）まで汽車の沿線を走ったので鉄道沿線強行遠足と言った。

行きはコースを走行し、帰りは本数の少ない汽車の最終に乗らねばならないので、締切に時間を設定した。生徒は帰りの汽車賃一人50銭を持ち、落した場合の為に学校では各関門に汽車賃を用意していた。

## 2. 賞状線

1年生は上生田原、2年生は下生田原、3年生以上は遠軽まで行かなければ落伍となるが途中で歩けなくなっても現在のように車が無いのでどうしても駅のある関門まで歩かねばならなかった。

## 3. 服装

軍国主義時代で制服、制帽、ゲートルを巻き、靴は長旅はワラジ履きが良いと言われ（当時コンクリートの舗装ではなかった）ワラジを腰に2足位縛って走った。食事は歩きながら食べられるように口に入る位のオニギリを風呂敷に包んで、腰に縛るか肩からかけて走行した。

## コースの変更

### 1. 昭和7年～17年 コース図1

第1回は曇のために遠軽まで（63.4km）、2回目中湧別まで（79.6km）、3回目より下湧別（84.5km）までとしたが、下湧別まで行った者は12名で、以後年々多くなり第10回の昭和16年には105名到着している。

第11回には折り返して良いというので下湧別まで17名、折り返し中湧別まで（89.4km）10名、上湧別まで（94.0km）2名到着している。

### 2. 昭和18年 環状コース コース図2

昭和15年に遠軽町に遠軽中学校が開校した。その為にこの地方よりの入学者が少なくなったので父母の手伝いも少くなりコースを変更した。

第12回 昭和18年 北見（市制施行により野付牛改め）訓子府、置戸、秋田、留辺蘂、相ノ内、北見、端野、緋牛内、美幌まで（101.7km）にした。

### 3. 昭和19年～42年 コース図3

昭和19年戦争熾烈となり、跣足鍛練もできず、上記のコースが、北見（73.2km）とした。このコースは男子のコースとして昭和42年まで続けられた。

#### 女子のコース

昭和25年 北海道北見北斗高等学校となり男女共学になった。この年強行遠足は種々の懸念から取り止めた。しかし中学時代より走った男子は強行遠足の再開を学校に要望した。

昭和26年、再開し第19回の強行遠足に女子コースが設立され、北見・上常呂・訓子府・中ノ沢・相ノ内、相ノ内、北見（39.1km）を走ることになった。

### 4. 昭和43年～現在 コース図4

車の増加で年々交通事情が悪化して来た。昭和42年 留辺蘂、相ノ内間で走行中の男子生徒が乗用車に接触され、膝と手に挫傷を負う程度の軽傷で済んだが、全面的なコースの検討をした。

検討委員会でコースを走行し2案を作ったが、その一つが現在のコースである。

北見・置戸・秋田より山間部を走り国道を走らない、中ノ沢を経て豊地、北見のゴールまで、女子は中ノ沢より男子と同じ豊地・北見までの男子72.0km、女子42.19kmのコースである。

**注** スタートは北見駅前、北見市民会館前、日産自動車前、西小学校等と変わり現在の北斗高校となったのは昭和52年の第45回からである。

ゴールは下湧別・美幌駅前・旧西小学校前（国道側）常盤公園と変わったり、コースの途中で工事の場合に一部コースの変更により距離も長くなったり短くなったりしている。常盤公園がゴール地点となったのは第38回の昭和45年からである。

### 跣足鍛練

昭和15年より19年までの放課後、全校生徒（身体の具合の悪い者を除く）パンツ1枚の裸で跣でグラウンド400mを5周する。土曜日には25周の1万米を走り強行遠足のための体力づくりをした。

戦後取り止めたが、強行遠足のために自主的に走っている者が多かった。

現在は体育の時間に校舎の周囲を走り、また放課後クラブ毎に走ったり、自己で体力づくりをおこなっている。

### 3年連続優勝者

旧制中学時代5年間で3回優勝者 石川 茂（10期生）、坂井靖男（21期生）2名、高校になって3年間で3年連続優勝者、男子 金内隆宣（58期生）1名、女子3年連続優勝者 太田千恵子（51期生）、伊藤真起子（59期生）、稲田佳子（65期生）3名いる。

太田千恵子は毎日12kmを走っていたという。

### 福羽杯

第1回優勝者は手をつないでゴールインした福羽二郎（7期生）と石川 茂（10期生）の2人であるが、福羽氏は強行遠足は自分の人生に大変有益であったと、昭和38年から毎年1万円を強行遠足のために使って下さいと寄付して下さり、またこの外に優勝者にあげたいと、バッチの図案を依頼された。

男子は校章の図案のキーホルダーで、女子は月桂冠の中に校章を入れたネックレスである。〔図案作成者 藤原和夫（20期生）〕純銀製で現在1個3000円する。また、昭和53年に第1回強行遠足で手をたずさえて優勝した石川 茂（10期生）氏より優勝杯（カップ）を寄贈されたので、これを女子の優勝盃とし福羽氏より寄贈されたカップ（写真）を男子の優勝盃とした。

昭和57年、北斗高校の創立60周年記念式典に感謝状を差上げたが、氏は50万円を寄贈されこの利子の半分を強行遠足の費用に、半分を元金に加えて使って欲しいと言われた。これら、20年以上にわたっての寄付行為の善意が認められて日本善行会より昭和61年11月表彰された。

この受賞祝賀会で福羽氏は又、北斗高校に50万円寄付して下さい、合計100万円の強行遠足の資金ができています。

### NHKの「いつもでない一日」

NHKの放送、テレビの放映は毎年あるが、昭和44年10月8日の強行遠足を特別番組として制作したいとNHKより相談された。最初は優勝者の今まで歩んできたものを「ある人生の記録」としたかったが、全国に散ばっている人たちの取材は大変で、この日一日を全国のNHK新人研修会にしようと、全国より37人の新任者を北見に集めて各ポジションで写しまくった。ヘリコプターも2機用意して写したものが「いつもでない一日」である。

これは全道には12月8日（55分ものとして）に放映され、全国には45年1月11日（50分ものとして）放映された。

当時全国的に学園紛争時代で、よくもこのような時代に素晴らしい行事だと、全国から賛辞が送られてきた。

昭和56年、第49回の強行遠足をNHK教育テレビの「高校生の広場」の教材として取材した。不適當な部分も一部あったが、HRの教材としては十分利用できるもので、この反響も全国から寄せられている。

### PTAその他の協力

学校スタート男子4時、女子5時であるが、生徒の親は2時頃より子供の登校の準備をして北見市外の町から送ってくれる。親の理解と協力が絶対必要である。〔自家用車の無い昔は、北見市外の者（汽車通学生）は知人、友人の家に泊めてもらいこれが現在も強い友情の絆となっている者が多い〕

コース沿線の町、警察、交通指導員、万一に備えての救急病院、関門付近の公共施設、（電話の借用、トイレ等）等。

各関門のPTA支部では夫婦で朝早くから関門設置の協力、接待、交通整理、北見市内母親のゴール地点でのうどん作り、コースの交通頻繁な個所の交通整理。またハムの免許を持っている父母の走行状況の連絡、看護婦の免許所有者の親は関門で看護の手伝い等。4割が、この強行遠足にたずさわって協力してくれている。

戦前・戦中・戦後の物資の無い時代に関門の接待は、ワラジの履きかえ用意、リンゴ、山ブドウ、トウキビ、等の接待で、砂糖湯などが上等の接待であった。

交通事情の悪化等もあるが、伝統ある行事として長く続けてもらいたいものである。

## コースの変遷



◎印：関門      ○印：通過関門

- |                    |         |
|--------------------|---------|
| 男 1. 北見～湧別         | 84.5km  |
| 2. 北見～置戸～留辺蘂～北見～美幌 | 101.7km |
| 3. 北見～置戸～留辺蘂～北見    | 73.2km  |
| 4. 北見～置戸～秋田～中ノ沢～北見 | 72.0km  |
| 女 1. 北見～訓子府～相ノ内～北見 | 39.6km  |
| 2. 北見～訓子府～中ノ沢～北見   | 42.2km  |

# 昭和7年～昭和17年

コースの変遷 図1



関門 (昭和11年)



優勝者 (昭和14年)



ゲートルを巻いて

下湧別 最終着点についた者





昭和12年



野付牛駅前 男子出発5時 現在のHOW 旧① 横文字に注意



関門にて 昭和15年



昭和16年 (ワラジ履きか地下足袋か)





(5月～9月迄の晴天の日) 跳足鍛練(パンツ一枚で) グラウンド4周 土曜日は25周



戦後ゲートルは巻かないでも良かったが、まだワラジ履き 男子出発 5時



6時 女子出発 昭和30年代(旧北見駅前)



女子出発 金市館(現ラルズプラザ前)



ゴール地点(旧西小学校正門前)  
昭和41年 現市立図書館入口前



置戸関門(昭和41年)



ゴール地点の接待  
旧西小学校正門前 現青少年勤労者ホーム  
のところ



コースを廻ったPTA役員  
辻丸会長、黒部、児玉、広川副会長  
坂本校長、田子理事



昭和42年 やっと女子がきた。



昭和42年



足がつる 昭和42年



昭和42年

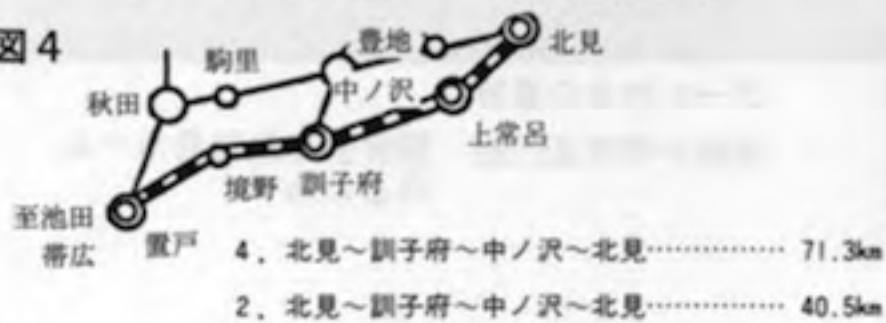


テレビに写したいつもでない1日  
のタイトル (昭和44年)



テレビに写ったタイトル 昭和44年

図4



テレビの画面の一部



昭和44年～46年頃

学園紛争の頃でこのような  
ふざけた格好で歩く者もいた。  
昭和45年



昭和46年 北見市民会館前をスタート地点とした。



上田 富昭  
昭和43年、昭和44年 優勝者  
第36回 第37回



ゴール地点の接待 昭和46年



関門の接待 昭和46年



昭和46年 ゴール地点 到着者を記録

中ノ沢関門



昭和50年



昭和50年



昭和51年



昭和51年



昭和50年 奥村邦雄  
優勝者のインタビュー



右 男子優勝盃 福羽盃  
左 女子優勝者 石川盃



福羽二郎（7期生）



優勝者男子 キーホルダー  
女子 ネックレス



昭和53年 女子  
ゴールでのうどんがうまい。



昭和53年 女子



昭和56年



女子優勝者 伊藤真起子（昭和56年）



昭和51年



ゴールも近い 橋の上



サイクリングロード ゴール常盤公園近く



サイクリングロードよりゴール地点を臨む



ゴール地点 常盤公園



中ノ沢関門の接待



ゴール地点 ウドン作り



うどん運び



食器洗い



スタート 本校グラウンド  
男子 4時 出発(平成元年)



# 完走バッチ

 3年連続完走		71回  昭和28年	第25回  昭和32年	第25回  昭和35年			
第11回  昭和38年	第22回  昭和37年	第27回  昭和40年	第34回  昭和41年	第35回  昭和42年	第36回  昭和43年	第37回  昭和44年	第38回  昭和45年
第24回  昭和46年	第40回  昭和47年	第41回  昭和48年	第42回  昭和49年	第43回  昭和50年	第50回  昭和51年	第45回  昭和52年	第46回  昭和53年
第47回  昭和54年	第48回  昭和55年	第49回  昭和56年	第50回  昭和57年	第51回  昭和58年	第52回  昭和59年	第53回  昭和60年	第54回  昭和61年
第55回  昭和62年	第56回  昭和63年	第57回  平成元年	第58回  平成2年	第59回  平成3年			
							第5回頃  従来の工作以外の 昭和11年頃の優勝ハンゲ



昭和28年

第28回  
昭和35年

第41回  
昭和48年



昭和32年

第39回  
昭和46年

第47年  
昭和54年



第48回 昭和55年



第49回 昭和56年



第51回 昭和56年



第53年 昭和60年



第54回 昭和61年



昭和59年8月 全国高等学校視聴覚教育研究協議会の「特別教育活動」部会で本校の強行遠足を全国に紹介。

## 第1回鉄道沿線強行遠足実施要領

北海道庁立野付牛中学校

1. 期 日	昭和7年11月12日(土)
コ ー ス	留辺蘂、生田原、遠軽方面
所要時間	12時間(自午前6時 至午後6時)
集合場所	野付牛駅前広場
集合時刻	午前5時30分
経 費	乗車賃10銭(全員より徴収)
賞 状 線	1、2年ボンムカ、3年以上上生田原
通 過 証	荷 札 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 途中審判ノ記入ヲ要ス</li> <li>2. 各駅間1軒程</li> <li>3. 列車時刻表</li> <li>4. 常紋通過ノ記念スタンプ</li> </ol>
服 装	制服、ゲートル、靴又ハタカジョウ、ワラジ何レモ可
携 行 品	オニギリ3食分、手拭、キャラメル又ハ氷砂糖、薬品、時計、着換シャツ
賞 品	先着順ニ20名ニハメダル、ソノ他ノ賞品ヲ与フ
規 約	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 鉄道線路ニハ絶対踏ミ入ラザルコト</li> <li>2. 乗車列車以外ノ列車ニハ許可ナク乗ラザルコト</li> <li>3. 常紋ノ通過ハ午後6時以後ハ許サズ</li> </ol>
職 務 分 担	総務部、記録成績調査係、会計係、救護係、途中連絡係
準 備	<p>足ナラシ遠足</p> <p>第1回 午後2時間ノ予定</p> <p>第2回 若松方面へ2時間授業後</p> <p>第3回 仁頃方面へ 1日間</p> <p>以上ノ外各学年ニ於テ適当ニトラックヲ15分程度ニ走り、充分ニ準備シテ置クコト</p>

## 第2回鉄道沿線強行遠足経費予算

昭和8年

1. 総額 百参拾貳円也

内訳

1. 生徒職員乗車賃 112.00円  
(ボンムカ均一1人分28銭、400人分)

2. 職員乗車賃 17.00円

印刷費 3.00円

収入

1. 徴収額(生徒1人15銭) 59.40円

2. 積立貯金利子ヨリ補助 72.60円

## 第11回鉄道沿線強行遠足要領

北見中学校報国団蹴渉班

期日 昭和17年9月23日(水) 雨天ノ際ハ26日(土)

集合場所 野付牛駅前

集合時刻 午前3時半

出発時刻 午前4時

経路 北見一留辺蘂一上生田原・遠軽一下湧別

行程 約85軒

服装 制服、制帽、ゲートル着用、穿物随意

携行品 食料(三食分)、着換、手拭、急救品等

留意事項

(1) 各関門ニテ

1. 各地方父兄、母姉、先輩方ニ欠礼ナキコト
2. 通過章ヲ明示シ記入ヲ受ケルコト
3. 停止ノ場合ハ係職員ニ通過章ヲ預ケルコト
4. 停止者ハ許可ナクシテ所定ノ休憩所ヲ離レザルコト
5. 帰省者ハ係職員ニ届出ルコト
6. 休憩所ニ於テハ疲労シ居ルト雖モ不作法ノ行為ヲ慎ムコト

(2) 路上ニテ

1. 他人ニ迷惑ヲ及ボサザルコト
2. 許可ナクシテ乗物ヲ利用セザルコト
3. 橋上、鉄道線路踏切等ニテ休憩セザルコト
4. 日没後ハ特ニ道路ノ側ニ出デザルコト
5. 下学年生ハ成可ク単独歩行セザルコト
6. 急救ヲ要スル場合ハ協力シテ係職員等ニ連絡スルコト
7. 生水ハ絶対ニ飲マザルコト

(3) 列車中ニテ

1. 凡テ係員ノ指示ニヨルコト
2. 他ノ乗客ニ迷惑ヲ及ボサザルコト
3. 混雑ト暖氣等ノタメ貧血ニ留意スルコト
4. 途中下車スル者ハ係員ニ申告スルコト
5. 一般乗者心得ヲ実行スルコト

(4) 雑

1. 靴ズレ、水腫ハ其ノ夜ノウチニ手当スルコト

結 び

聖戦下傳統を誇る北見健兒の頑張りと北斗が岡に鍛へたる健脚と頼もしき青少年の意気を以て百軒突破の壮途に全校七百擧つて突進す。快適ならずや。

疲労困憊すと雖も終始学徒の本分を恪守し、上記の事項に留意し北見健兒の意気を発揚し以て有終の美を収めよ。

## 第32回強行遠足実施要領

1. 目 的 体力の向上及び不撓不屈の精神を養うと共に各自の体力に応じ長距離歩走法を研究理解し自己の能力をよく自覚して有効に發揮せしむ。
2. 期 日 昭和39年9月12日(土) 雨天順延
3. コー ス 別 記
4. 集 合 要 領 集合場所 北見駅前  
集合時間 男子 午前3時30分 女子 午前5時30分  
出発時間 " " 4時 " " 6時
5. ゴール 西小学校正門(大通西7丁目)
6. 優勝及び賞 イ. 学級優勝 ロ. 学年優勝 ハ. 個人(男女別)

## 準 備

1. 総 務 統轄、連絡、交渉、整理
2. 庶 務 イ. 父兄同窓、小中学校長、役場、教委、駅へ依頼状発送  
ロ. 通過証印刷、連絡票、関門連絡書作成
3. 級 担 任 イ. 参加、不参加者名簿作成（関門別）  
ロ. 宿舍指導及び調査  
ハ. 健康状態調査、学校医・養護教諭と連絡
4. コース視察係 沿線コース調査、挨拶依頼
5. 会 計 賞状、賞品、薬品、謝礼、汽車賃等経理

## 分担業務

1. 総 務 統轄、連絡、整理
2. 庶 務 礼状の作成及び発送、成績整理、賞状準備
3. 会 計 経理の一切
4. 記録調査、学級別、学年別成績作成
5. 救 護 イ. 補助関門及び区間の長い所の落伍者の処理  
ロ. 救急品の用意  
ハ. 分担区域の設定（コース途中における違反防止、事故者の処理）
6. 関 門 係 イ. 父兄と連絡の上関門の諸準備  
ロ. 到着順に通過番号札を渡す（各関門に於て作成）  
ハ. 停止者の氏名を名票により明白にすること。  
ニ. 連絡票に到着後、通過数、停止数を明記し、関門閉鎖後次の関門に連絡  
ホ. 関門報告書に状況を記入、終了後総務に提出  
ヘ. 病人・負傷者に対する救護（薬品携行のこと）  
ト. 後日礼状を出すべき人の氏名を総務に報告  
チ. 先着者氏名、時間、最終通過者氏名、時間、その他必要事項は本部連絡
7. 駅前点呼係 イ. 出発者の氏名人員、健康状況の点検、遅参者の確認  
ロ. 出発隊形の整頓各係は今後の参考資料にするため感想又は反省事項を総務に連絡すること。

# 平成3年度 業務分担処理留意事項

## 1. 前 走

- 1) 先頭者又は先頭グループを安全に誘導する。

## 2. 関門責任者

- 1) 前・後走者、路上観察、本部(北見関門)等との諸連絡。
- 2) 記録その他、関門業務を正確に遂行する。
- 3) 計時、関門締切・出発締切(停止)時間の指示徹底。  
(通過関門ではできるだけ停止させないようにする)
- 4) 関門報告書(各関門連記のもの)に正確に記入し、できるだけ早く関門報告書係に託して次関門へ送る。  
(正規関門の場合、締切40分以内にその作業を終えること)  
尚、事前に責任者会議を持ち、記録表を含めてその記入要領の徹底を期すこと。
- 5) 生徒の脱衣は専用ワゴン車を使い、北見関門へ輸送する。  
(以下、正規関門の場合)
- 6) 最後尾の生徒に赤ダスキをつけさせる。
- 7) 途中落伍者(棄権者も含めて)から通過票(停止・遅刻)にそれぞれ必要事項を記入し、北見関門の責任者に直接手渡す。

## 3. 関 門 員

- 1) 順位カードを提出させ、「記録表」に順位・時間を記載し、ついで、生徒の「通過票」に同事項を記入、関門印を押した上返す。
- 2) 受付業務手順の徹底  
まず、順位カードを提出させ、「記録表」に順位・時間を記載し、ついで生徒の「通過票」に同事項を記載し、関門印を押した上返す。  
(時間は上位者を除いて10分単位で記入する。)  
落伍者が出た場合は、「通過票」を預かった上、「記録表」備考欄に次の記号を用いて略記する。  
(キ) ……途中棄権      (チ) ……遅刻到着  
(テ) ……関門停止
- 3) 生徒の脱衣は各自荷札をつけ、クラス・氏名を明記し、ビニール袋(関門名記入)に入れさせること。

## 4. 路上監察

- 1) 通行区分の指示は、別紙図面で示す。安全通行・走行を徹底させる。
- 2) 監察車の走行の際は石等をはねないように注意し、緊急の場合を除き、毎時30km程度で走るものとする。
- 3) 途中、落伍者を乗車させた場合は、必ず次の関門に送り責任者に連絡する。

4) 交通整理父母協力者を交通量の多い場所、又は危険な場所に配置して、生徒の交通安全に万全を期する。

5) 途中での生徒の脱衣類は、次関門まで届けること。

## 5. 後 走

1) 最後走者、又は最終グループを把握する。

2) 最後であることを関門責任者や交通整理者に知らせる。(腕章集めも)

## 6. 関門報告書係

1) 関門締切後、40分以内に責任者より関門報告書を受取り、次関門責任者に渡す。

## 7. そ の 他

1) 晴雨にかかわらず、集合は学校とし、決行・中止の判断は、本部が行ない、連絡に万全を期する。

2) 北見出発点での、遅刻者の出発は認めない。

3) 各業務終了後、職員は北見関門本部に集合して指示を受けること。

4) 担任は、生徒の動向を把握し、本部・記録との連絡を取る。

## ◆ 注 意 事 項

本行事が、全生徒の体力の向上と、不撓不屈の精神の高揚を目的としている以上、各自、自己の能力を有効に発揮するため、以下の諸注意事項を遵守し、有終の美をおさめるよう指導する。

### 1. 準 備

1) 天候に応じた服装等を準備すること。

(携帯雨具、通過票が濡れないような工夫、帽子・手袋の用意等)

2) 脱衣する可能性のあるものや持ち物には全て、予め荷札(学年・組・氏名記入)をつけておくこと。

3) 前日の睡眠を十分取るよう努めること。

4) 走歩前に軽い食事をしてくること。

5) 集合時間を必ず守ること。

(遅刻をすると、悪条件が重なり、途中棄権のもとになる)

### 2. 服 装

1) ランシャツ、短パン、体育用ジャージ上下とし、必ず体育用ゼッケンをつける。

2) 脱衣の際には、予め用意してある荷札(クラス・氏名明記のこと)をつけ、関門では受付に、走歩途中では監察の先生に預け、北見関門で受け取ること。

なお、その場合でも必ずゼッケンのつけかえを忘れないようにする。

3) 新しい靴は絶対に使用しない。靴ずれ・水膨れはその日のうちに手当すること。

### 3. 各 関 門

1) まず、「到着順位カード」を受取り、所持している「通過票」とともに、受付に明示し、通



過票に記入を受ける。なお、受付の場所は、各関門とも手前から、全日制1年、2年、3年、定時制の順になっている。

2) 各関門での父母の接待に対しては、感謝の気持をもってそれを受け、欠礼しないこと。

3) トイレの手配がされているので、遠慮せずに申し出ること。

4) 停止・落伍の場合は、係の先生に通過票を預け、指示を受けること。

(無断で各関門の休憩所を離れないこと)

訓子府～置戸間では池北高原鉄道、秋田～中ノ沢間では特別バスを利用することになる(鉄道料金は自己負担とする)。

5) 通過関門では、できるだけ停止しないこと。

(やむをえず停止の場合は、4)同様、係の先生に通過票を提示し、指示を受けること。)

#### 4. 路 上

1) 走歩の際には、カーブ・交差点・踏切等は特に注意すること。

(車の前後も確認せよ)

2) 一人で走歩するのは、できる限り避けること(特に1年生)

3) 途中休息は、左側の見通しの良い路肩ですること。

4) 生水は、できるだけ飲まないこと。

5) 緊急を要する場合は、互いに協力し、路上監察の先生に連絡すること。

6) 途中棄権の場合も、必ず路上監察の先生に申し出て、指示を受けること。

(その際、通過票を提出することを忘れないように。)

7) 許可なく、乗物を利用しないこと。

8) バイク・乗用車の使用は一切禁止する。

#### 5. そ の 他

1) 朝、集合の際、学校の周囲は民家なので、喚声を上げたり、過度に騒いだりしないこと。

2) 路上や道路脇に、物を捨てないこと。



強行遠足風景(昭和53年)

## 北海道北見北斗高等学校強行遠足優勝者

回	年度	月 日	男 子			女 子		
			学年	氏 名	距 離km	学年	氏 名	距 離km
1	7	11. 12	5	福石 羽二 郎	63.4			
2	8	9. 30	3	石川 義 茂	79.6			
3	9	9. 29	3	関 義 隆	84.5			
4	10	9. 28	5	石川 義 隆	"			
5	11	10. 16	5	関 義 隆	"			
6	12	9. 11	5	小菅 義 明	"			
7	13	9. 17	5	下出 清 明	"			
8	14	9. 02	5	坂井 敏 夫	"			
9	15	9. 25	5	田子 節 次	"			
10	16	10. 06	5	江頭 裕 美	"			
11	17	9. 26	2	吉田 仁 志	94.0			
12	18	9. 24	2	坂井 靖 男	101.7			
13	19	10. 06	3	湯浅 栄 治	73.2			
14	20	10. 21	4	坂井 靖 男	73.2			
15	21	10. 20	5	坂井 靖 男				
16	22	9. 30	5	吉藤 輝 昭				
17	23	10. 01	3	吉藤 輝 昭				
17	24	10. 03	定	吉塩 田 富 治				
	25		中 止					
19	26	10. 07	3	吉藤 喜 教	72.35	2	私市 昌 子	39.0
20	27	10. 05	3	松崎 洋 海	"	3	大浦 和 子	"
21	28	10. 10	3	神原 能 嗣	"	2	長山 登 美	"
22	29	9. 25	3	高橋 道 義	"	1	伊藤 令 子	"
23	30	9. 12	3	田中 忠 之	"	2	城地 京 子	"
24	31	9. 17	2	東 勝 利	"	3	城地 京 子	"
25	32	9. 28	3	東 勝 利	"	3	速水 京 子	"
26	33	9. 27	降雨のため実施途中で中止					
27	34	9. 26	3	松島 悟 男	"	3	石峰 紀美子	"
28	35	9. 28	2	中島 忠 男	"	2	塩浜 美恵子	"
29	36	9. 19	3	阿部 輝 昭	"	1	井下 和美子	"
30	37	9. 11	3	飯田 敏 勝	"	1	今井 惠 子	"
31	38	10. 01	3	貝沼 昌 一	"	2	今井 惠 子	"
32	39	9. 12	定4	田畑 征 彦	"	3	小関 陽 子	"
33	40	9. 21	3	柏原 利 男	"	3	佐木 ふたえ	"
34	41	9. 20	2	上田 勝 敏	"	2	津川 洋 子	"
35	42	10. 03	3	横地 博	"	3	景川 あや子	"
36	43	9. 25	2	上田 富 昭	67.3	2	沢目 美和子	36.5
37	44	10. 08	3	上田 富 昭	"	2	桜庭 信 子	
38	45	10. 08	3	阪田 裕 生	"	2	酒井 京 子	
39	46	10. 08	2	平野 伸 生	57.7	3	酒井 京 子	34.1
40	47	10. 06	3	平野 伸 生	65.6	1	三好 千恵子	33.8

回	年度	月 日	男 子			女 子		
			学年	氏 名	距 離km	学年	氏 名	距 離km
41	48	10. 08	2	横 山 大 介	"	1	太 田 千 恵 子	36.0
42	49	10. 08	3	横 山 大 介	66.5	2	太 田 千 恵 子	36.9
43	50	10. 08	3	奥 村 邦 雄	"	3	太 田 千 恵 子	36.9
44	51	10. 08	2	柳 田 和 男	65.7	1	湯 場 真 由 美	43.3
45	52	10. 07	2	三 浦 秀 昭	71.2	2	松 村 浩 美	40.5
46	53	10. 06	2	中 里 喜 義	72.6	2	村 岡 美 樹	"
47	54	10. 05	2	近 藤 道 行	71.3	2	吉 田 由 里 子	"
48	55	10. 08	1	金 内 隆 宣	"	2	菊 地 泉	"
49	56	10. 08	2	金 内 隆 宣	72.5	1	伊 藤 真 起 子	"
50	57	10. 08	3	金 内 隆 宣	72.6	2	伊 藤 真 起 子	40.9
51	58	10. 07	2	江 下 範 之	71.4	3	伊 藤 真 起 子	"
52	59	10. 05	3	江 下 範 之	"	2	菅 原 亜 紀 子	40.
53	60	10. 09	2	西 晃 弘 之	"	3	菅 原 順 子	41.8
54	61	10. 12	2	鈴 木 智 之	"	2	西 幸 子	"
55	62	10. 10	3	沢 辺 耕 平	"	1	稲 田 佳 子	"
56	63	10. 09	2	工 藤 晃 大	71.8	2	稲 田 佳 子	41.2
57	平元	10. 08	3	形 浦 貴 一 郎	"	3	稲 田 佳 子	42.2
58	2	10. 07	3	篠 田 陽 介	72.0	2	植 松 久 美 子	"
59	3	10. 06	1	澤 野 修 一	71.8	2	能 戸 光 代	"
60								

**資 料** 山梨県立甲府第1高校の強行遠足

男子午後2時30分出発 夜通し歩いて翌日12時〆切  
 翌日女子午前6時30分出発 14時40分〆切



甲府第一高校正面



校舎より各クラスの激励のタレ幕



同窓会長の激励 男子制服で出発  
 途中で脱いで歩く



女子出発 (各学年毎のジャージで)  
 女子出発地点 甲府より26.0km  
 はなれた須玉小学校

## 「強行遠足に新たな一ページを」

平成3年（1991）4月1日付で第19代目の校長として赴任した現在の齊藤静之校長が、38年振りで校門をくぐって最初に脳裏に閃めいたのが、強行遠足のことであったという。

本校の28期生でもあり、自からも3年生時に9位になった体験を持つ卒業生の一人であるのでその思いには深いものがあったようである。

前任の豊島正俊校長から平成4年9月6日に創立70周年記念式典が挙行されることを引き継ぎ、記念行事・記念事業の概要も内定されていた。しかし、北見北斗らしさを求めて平成3年8月19日の創立70周年記念協賛会第1回代表者会議に「甲府第一高等学校との強行遠足による交歓」と「同窓生による記念講演会」の二つを加えてくれるよう提案した。

同窓生とPTA会員から構成されている協賛会はそのことに全員一致で共鳴し、その推進について積極的に取り組むよう校長に一任した。

しかし、同校長は相手校の考えもあるであろうから協賛会に諮る前に先方の校長の意向を把握する必要があると判断して、平成3年5月に東京で開催された全国高等学校研究協議会の会場内に甲府第一高等学校の広瀬重雄校長を訪ねその主旨を説明した。

「交流というとすぐ国際間のことを考えるが、同一行事を通じて、山梨と北海道の高校が交歓することは素晴らしいことだ」「甲府第一高の生徒に夢を与えてくれた」と即座に賛意を示したとのことである。その日が5月29日で、東京普門館の一隅であったというから、その日、その場所が甲府第一高校との交歓の出発点となったことになる。

本校では協賛会のゴーサインを背に、早速全校職員に同意を求め、事前視察の必要性を感じ派遣職員の人選に入った。と同時に甲府第一高校に対して本校の強行遠足の実情を視察してもらうための職員の派遣を8月20日付の文書で依頼した。

甲府第一高校の実施日が10月2日・3日であり、その実施内容、運営方法も違うことから本番の平成4年度を成功させるためには綿密な用意が不可分となり、総務部長の浅利吉雄教諭と体育科主任の田中晴美教諭が派遣された。



長野県の関門  
(後方 校章入れの旗が見える)

(ゴール地点103.6km)  
清里 44.7kmの関門

甲府第一高校でも、本校の申し出について広瀬校長より全職員に説明がなされ、その意義を全員が認め、快く交歓に応じる賛意を本校に寄せてくれた。10月6日の本校の第59回強行遠足には、穂坂勝命教諭と薬袋武雄教諭が視察に訪れた。

二人とも大変精力的に実施状況を点検し、「明年は大成功になるでしょう」との言葉を残して北見を去ったということである。

山梨県立甲府第一高等学校は寛政年間、甲府城南の地に設置された甲府学問所を前身とする官学徴典館を淵源とする学校である。明治6年(1873)5月に開智学校と改称され、以来何度かの校名変更と合併統合が行なわれ、平成2年創立110周年記念式典を行った名門中の名門校である。かつての石橋堪山総理大臣を輩出した学校としても有名で、甲斐の国の中心学校として、隠然とした歴史と伝統を誇っている。

強行遠足の第一回目は大正13年(1924)11月に実施されている。今迄に2回程、中止の年があったが、本年で66回目の歴史を刻むことになっている。本校が60回目を迎えることになるので、6回多い実施回数となる。

本校と同様に、試行の中からまた学校制度の改制や男女共学によってコースも距離も何度か変更になっているが、現在は男子が甲府～葦崎～野辺山～白田～小諸の103km、女子は須玉町～野辺山～小海までの46kmを男子は午後2時半に出発して夜中を徹して歩き、女子は午前6時30分に出発し、夕方までに小海に着き、帰路は男女ともJRを利用して帰校することになっている。本校の走ることを中心とすることと異って、歩くことを主眼としている。

甲府第一高校も本校も、最初の頃はともに「鉄道沿線強行遠足」と称していたことには注目に値する。この偶然を解明することも一つの意味を持つのではないかと考えられる。

昭和60年(1985)の第60回記念として「強行遠足記念像」が建立されその記念像に「君よ走れ新たな歴史を創る道程」の一文が刻まれている。

いよいよ交歓実施の平成4年度になった。日程も10月4日が本校、10月13日、14日が甲府第一高校と決った。その受け入れと派遣の準備が本格的に進めなければならないため、本校内に「交流会準備委員会」が発足し、次の人々がその任に当たっている。

野津寿一教頭、駒谷邦夫教諭、遠藤照男教諭、川原 忠教諭、浅利吉雄教諭、橋本定彦教諭、島津清志教諭、出口康一教諭、田中晴美教諭の各先生で構成されている。

甲府第一高校との連絡は委員会の代表である田中教諭があたり、着々と実施にむけての用意がなされている。

両校の交流人数を生徒4名(男・女各2名)、引率教諭2名、校長の計7名とし、費用の一切を記念協賛会で負担することになっている。先日発表された実施大綱によると、その目的を次のように記してある。

「本校創立70周年にあたり、しかも第60回を迎える最大の伝統行事である強行遠足の持つ意義を再確認し、同じ行事を実施している甲府第一高校との交流から、さらに発展、継続することを目的とする。また、道外の伝統校との同一年行事による交歓を通し、相互の理解を深め、将来にわたる両

校の望ましい関係を構築する第一歩とする」

費用のかかるイベントであるので、毎年の実施には無理があると思われる。甲府第一高校では同窓会の一行事として検討する用意があるとの情報も伝えられている。創立70周年記念行事の一つとして企画された今回の交流が、今後とも何らかの方法で続くことが期待される。

**資料**

**山梨県甲府第一高等学校  
強行遠足 全行程略図**



七十年史 正 目 次

	目 次	頁
本誌の刊行	大正15年 1期生5年生	大正14年 4年生
創立	第1代 小野原文蔵	第1代 小野原文蔵
創設	明治61年度 小野原文蔵、小野原文蔵 創立の経緯と設立 の経緯、校舎等に關 するもの。	明治61年度 小野原文蔵、小野原文蔵 創立の経緯と設立 の経緯、校舎等に關 するもの。
創立70周年	大正15年	大正15年
1908年より1978年	明治31年	明治31年
1978年より1979年	昭和3年	昭和3年
1979年より1980年	昭和4年	昭和4年
1980年より1981年	昭和5年	昭和5年
1981年より1982年	昭和6年	昭和6年
1982年より1983年	昭和7年	昭和7年
1983年より1984年	昭和8年	昭和8年
1984年より1985年	昭和9年	昭和9年
1985年より1986年	昭和10年	昭和10年
1986年より1987年	昭和11年	昭和11年
1987年より1988年	昭和12年	昭和12年
1988年より1989年	昭和13年	昭和13年
1989年より1990年	昭和14年	昭和14年
1990年より1991年	昭和15年	昭和15年
1991年より1992年	昭和16年	昭和16年
1992年より1993年	昭和17年	昭和17年
1993年より1994年	昭和18年	昭和18年
1994年より1995年	昭和19年	昭和19年
1995年より1996年	昭和20年	昭和20年
1996年より1997年	昭和21年	昭和21年
1997年より1998年	昭和22年	昭和22年
1998年より1999年	昭和23年	昭和23年
1999年より2000年	昭和24年	昭和24年
2000年より2001年	昭和25年	昭和25年
2001年より2002年	昭和26年	昭和26年
2002年より2003年	昭和27年	昭和27年
2003年より2004年	昭和28年	昭和28年
2004年より2005年	昭和29年	昭和29年
2005年より2006年	昭和30年	昭和30年
2006年より2007年	昭和31年	昭和31年
2007年より2008年	昭和32年	昭和32年
2008年より2009年	昭和33年	昭和33年
2009年より2010年	昭和34年	昭和34年
2010年より2011年	昭和35年	昭和35年
2011年より2012年	昭和36年	昭和36年
2012年より2013年	昭和37年	昭和37年
2013年より2014年	昭和38年	昭和38年
2014年より2015年	昭和39年	昭和39年
2015年より2016年	昭和40年	昭和40年
2016年より2017年	昭和41年	昭和41年
2017年より2018年	昭和42年	昭和42年
2018年より2019年	昭和43年	昭和43年
2019年より2020年	昭和44年	昭和44年
2020年より2021年	昭和45年	昭和45年
2021年より2022年	昭和46年	昭和46年
2022年より2023年	昭和47年	昭和47年
2023年より2024年	昭和48年	昭和48年
2024年より2025年	昭和49年	昭和49年
2025年より2026年	昭和50年	昭和50年
2026年より2027年	昭和51年	昭和51年
2027年より2028年	昭和52年	昭和52年
2028年より2029年	昭和53年	昭和53年
2029年より2030年	昭和54年	昭和54年
2030年より2031年	昭和55年	昭和55年
2031年より2032年	昭和56年	昭和56年
2032年より2033年	昭和57年	昭和57年
2033年より2034年	昭和58年	昭和58年
2034年より2035年	昭和59年	昭和59年
2035年より2036年	昭和60年	昭和60年
2036年より2037年	昭和61年	昭和61年
2037年より2038年	昭和62年	昭和62年
2038年より2039年	昭和63年	昭和63年
2039年より2040年	昭和64年	昭和64年
2040年より2041年	昭和65年	昭和65年
2041年より2042年	昭和66年	昭和66年
2042年より2043年	昭和67年	昭和67年
2043年より2044年	昭和68年	昭和68年
2044年より2045年	昭和69年	昭和69年
2045年より2046年	昭和70年	昭和70年
2046年より2047年	昭和71年	昭和71年
2047年より2048年	昭和72年	昭和72年
2048年より2049年	昭和73年	昭和73年
2049年より2050年	昭和74年	昭和74年
2050年より2051年	昭和75年	昭和75年
2051年より2052年	昭和76年	昭和76年
2052年より2053年	昭和77年	昭和77年
2053年より2054年	昭和78年	昭和78年
2054年より2055年	昭和79年	昭和79年
2055年より2056年	昭和80年	昭和80年
2056年より2057年	昭和81年	昭和81年
2057年より2058年	昭和82年	昭和82年
2058年より2059年	昭和83年	昭和83年
2059年より2060年	昭和84年	昭和84年
2060年より2061年	昭和85年	昭和85年
2061年より2062年	昭和86年	昭和86年
2062年より2063年	昭和87年	昭和87年
2063年より2064年	昭和88年	昭和88年
2064年より2065年	昭和89年	昭和89年
2065年より2066年	昭和90年	昭和90年
2066年より2067年	昭和91年	昭和91年
2067年より2068年	昭和92年	昭和92年
2068年より2069年	昭和93年	昭和93年
2069年より2070年	昭和94年	昭和94年
2070年より2071年	昭和95年	昭和95年
2071年より2072年	昭和96年	昭和96年
2072年より2073年	昭和97年	昭和97年
2073年より2074年	昭和98年	昭和98年
2074年より2075年	昭和99年	昭和99年
2075年より2076年	昭和100年	昭和100年

**北海道北見北斗高等学校**  
**創立70周年記念誌**  
 写真で見る北斗の70年  
  
 発行日 平成4年9月6日  
 編集 創立70周年記念誌  
       編集委員会  
 印刷 北見市本町5丁目6-11  
       株式会社 サン印刷